

第37回全道基地問題交流集会in釧路

2013年11月23日(土)午後1時30分～午後5時30分 「道東勤医協会館」

帯広平和委員会代表理事 竹腰三男

帯広平和委員会事務局長 藤岡博史

はじめに

帯広・十勝での、平和を守り前進させる取り組みは、情勢を反映して厳しいものとなった。軍事訓練への私たちの抗議や監視などの取り組みは、十分だったのか。報告を兼ねて検討したい。

1 「パラシュート降下訓練」

今年も、陸自第1空挺団(千葉県習志野市)は、十勝管内鹿追町の乳牛育成牧場と芽室町私有地で落下傘での降下訓練を強行した。降下訓練は、2008年から毎年実施し、今回で6年連続6回目。



帯広平和委員会も加盟する「有事法制反対十勝連絡会」は、1月9日午後、第5旅団を通して第1空挺団に、降下訓練に反対し、訓練の中止を要請した。第5旅団高橋総務課長と野村広報班長が対応。質問などへの返答から分かったことは次のとおり。

- ・訓練の内容は、降下訓練・スキー訓練・総合訓練で1月22日から2月9日まで。1/22 鹿追で降下・1/23～26 スキー訓練など、1/27～29 芽室で降下・2/1～2/5 スキー訓練など、2/6 鹿追で降下・2/7/2/8 スキー訓練など、2/9 C1 輸送機で降下・総合訓練。その他は CH-47 ヘリコプターを使用する。予備日はない。また、第5旅団は輸送や通信などで後方支援。合同訓練はしない。
- ・1月27日(日)午前10時から公開(その時間前に降下があるかも)、公開の延期は2/9。
- ・民有地や公有地での訓練は、それぞれ地権者と協定を結んで行なっている。「協定書」を結べば訓練可能の根拠、全国でのこのようなケース(民有地を連続して訓練に使用)の例については、調査して後日回答する。
- ・銃を携行しての降下が基本なので、携行しての降下を予定している。携行しないようにとの要請は伝える。海外での降下は全く想定していない。
- ・然別演習場などでは、平坦な雪原がなく、木が生い茂っているなど条件が悪い。
- ・降下に失敗することがないように、連絡手段などを改善した。

※ 「なぜ民有地や私有地で訓練をするのか」

陸上自衛隊第一空挺団(司令部・千葉県船橋市)は、2008年鹿追町(町営牧場)、2009年以降、鹿追町(町営牧場)と芽室町(私有地)で「北方積雪地訓練」を実施してきた。当初、第一空挺団は民有地などに降下することについて、「帯広駐屯地内では、適当な広さが確保できない。民有地は自然に近い環境で訓練ができる。」と説明してきた。しかし、鹿追町には「然別演習場」(中演習場)があり、十分な広さが確保出来、自然に近い山裾にある。敢えて町有地や民有地で降下訓練をするねらいは、慣熟作戦:演習場以外で訓練することに町民・国民を慣れさせることである。

今年、降下訓練の中止を求める「申し入れ」の時、降下訓練を演習場以外で行なう根拠は

何か、日本の他の地域で町有地や私有地を使用している例があるのか、あるなら示すように要請した。

■ 回答(2013/1/22 陸自第5旅団広報からの電話)は、以下のとおり。

① 防衛省設置法第4条で、教育訓練が出来ることになっている。訓練での民有地の使用について、「できない」とする根拠も、「できる」とする根拠もない。民有地は自衛隊の土地ではないので、民法の「管理権」に基づいて、土地の管理者の許可を得て訓練を行なうことになる。道路については、警察の道路使用許可を得ている。



② 同一の民有地で継続的に訓練を行なっている事例北海道では芽室町のみ。空挺団としては、千葉県安房(あわ)郡鋸南(のこなん)町の保田(ほだ)海岸で、平成元年から「水上降下訓練」を行なっている。

◆ 結局、演習場以外で訓練をする根拠はないのである。また、海岸は知事の使用許可が必要な保全区域であり、民有地使用の例にならない。従って、日本全国で民有地・私有地を使用して降下訓練をしている例は、他にないのである。

有事法制反対十勝連絡会は、1月27日(日)午前、芽室町新嵐山スキー場南西部の民有地で、陸上自衛隊第1空挺団によるパラシュート降下訓練に抗議する予定だった。だが、午前7時半頃強風のため27日の訓練を中止すると自衛隊から連絡が入った。午前8時半頃、スキー場第2駐車場には、帯広・音更・幕別・大樹から抗議・監視に駆けつけて来たが、止むなく中止。28/29日に芽室町で降下訓練を強行。両日、抗議・監視行動を行なった。

また、報道関係への公開が2月9日(土)鹿追町で行なわれるとのことで、監視に行ったが、この日も強風のため訓練や公開は中止された。訓練公開は翌10日に行なわれた。

引き続き、訓練反対の活動を進めてゆきたい。

2 「浜大樹上陸訓練」

5月23日、陸上自衛隊総監部は、H25年度の演習計画を発表。6月から7月、連隊規模の協同転地演習を、中部方面区から北部方面区で実施する。6月5日夕方に大樹町議から、浜大樹での上陸訓練が7月8・9日(予備日7月10日)予定の連絡があった。

6月17日(月)午後、「浜大樹上陸訓練反対十勝連絡会」の会議を開き、反対行動について話し合った。

- ① 抗議集会を、7月8日(月)午前8時から、浜大樹(演習場の南側)で開く
- ② ヤグラ建てを、7月7日(日)午後1時「帯広民商」出発、現地3:30着で実施する
- ③ 6月29日(土)午後1時から「JR帯広駅南」で、街頭宣伝・チラシ配布
- ④ 6月30日(日)午前9:30「大樹町道の駅2階」集合で、大樹町チラシ配布
- ⑤ 6月21日(金)午後4時、陸上自衛隊第5旅団への申し入れ(3:45 共産党事務所集合)

※ 1977(S52)年大樹町旭浜で始まった上陸訓練は、1985年(S60)に場所を浜大樹に移し、1987年(S62)には「浜大樹訓練場」とした。全国唯一の上陸訓練場である。1998年(H10)

に、「おおすみ」(エアクッション型揚陸艇 LCAC2 機搭載)が初参加。訓練内容は様変わり。今年上陸した第 10 師団(司令部/愛知県名古屋市)は、1987 年、1997 年、2005 年、2009 年に次いで 5 回目。

※「朝雲ニュース」(2012/7/19)から

昨年協同転地演習に参加した第 6 師団は、「矢臼別演習場の後、協同転地演習の一環として「然別演習場」で実弾射撃。81 ミリ迫撃砲練成射撃と小銃小隊戦闘射撃の各訓練を行なった。連隊が然別演習場で実弾射撃を行なうのは初めて。」、「4 日に移動」、「6 日から 9 日まで...実射訓練を行なった」、「不順な天候の中で夜間射撃も実施した」。

6 月 21 日夕方、「浜大樹上陸訓練反対十勝連絡会」は、第 5 旅団を通して上陸訓練の中止を申し入れ。高橋広報班長と野村総務課長が対応。

■ 質問への回答で、分かったことは次の通り。

- ⑥ 上陸演習は、7 月 8 日(月)を予定している。7 月 9 日(火)は予備日。
- ⑦ 上陸部隊は、中部方面区第 10 師団第 14 普通科連隊と中央即応集団の飛行隊
- ⑧ 上陸規模は、第 14 普通科連隊隊員約 80 人、車両約 25 両、戦車 1 両、
- ⑨ 中央即応集団の飛行隊は、CH-47 を使用する
- ⑩ 戦車は 90 式戦車で、第 5 旅団のものを釧路港で輸送艦に上船し、浜大樹で上陸
- ⑪ 女満別空港や苫小牧港(民間フェリー使用)を利用する
- ⑫ 女満別空港を民間機利用かチャーター便利用かは不明
- ⑬ 第 5 旅団は、釧路港や浜大樹で支援する
- ⑭ 帰路も、浜大樹以外は同様のルート
- ⑮ 輸送艦は、おおすみ型だが艦名は不明
- ⑯ 今回、然別演習場を使用しての訓練は予定していない
- ⑰ 訓練当日、広報班長も総務課長も現地に向かう、質問などに対応する

※ 関連しての質問で判明したこと

①第 5 旅団創立記念式典は 9 月 7 日を予定 ②90 式戦車の輸送費用があるので戦車の公道自走はない ③パレードを実施する考えはない ④武器展示について、上から「見学者が武器に触れることがないように」との指示がある、第 5 旅団では展示しないことを検討している。

また、申し入れ中隊員が参加者の写真を個別に撮影している様子について、今後こうしたことがないように申し入れた。

※ 上陸訓練について、第 5 旅団広報班長から労連十勝ブロックに連絡が入った。(中止申し入れの時に、詳細が分かったら連絡するとの約束があった)

- ① 上陸訓練は、7 月 8 日(月)午前 10 時から午後 5 時を予定。但し、ヘリコプターによる事前の調査などは、それ以前に始まる。上陸訓練は午前 11 時頃か?
- ② 「申し入れ」の際、「然別演習場」での実弾射撃訓練などはないと回答したが、7 月 9 日(火)から 1 週間程度行なう予定。

※ 「浜大樹通信」NO.44 / 2013/6/18 で、お知らせした通り、昨年上陸した第 6 師団は、「矢臼別演習場」での訓練を終えて、7/4「然別演習場」に移動、7/5 準備、7/6-9 実射訓練を行なっています。今年は、矢臼別演習場に向かう前に、然別演習場で訓練を行なった。協同転地演習の中に、然別演習場での実射訓練が本格的に組み込まれて来たことを意味す

る。訓練の強化・拡大です。

■ 今年の上陸訓練の様子（「浜大樹通信」NO.46 2013/7/11 から）

7月8日(月)午前8時過ぎ、上陸訓練反対集会を開始。海岸は見えるものの、海の上は遠くまで霧が立ち込めて、沖合いに停泊しているはずの輸送船の姿は見えない。

事務局長から長い経過説明を含めた開会挨拶。志民大樹町議が町議会などの動きについて報告。道安保と道平和委からの連帯メッセージ紹介。連帯挨拶として道安保橘氏、道原水協嶋田氏、日本共産党旗手氏が、情勢も含めて丁寧なお話。また、先日矢臼別演習場で行なわれた米海兵隊の実弾射撃での、演習場外への着弾について、矢臼別平和委員会の吉野氏が裏話を含めて詳しく報告。

そうこうするうち、霧が晴れると同時に、ヘリコプターの音と動きが激しくなる。CH-47が沖合いの「おおすみ」に着艦し、戻ってくる。多用途ヘリが何度も訓練場周辺を回り、防霧林の上で長いホバリング(空中停止)。小さな偵察用ヘリも全体が見渡せる位置でホバリングし続ける。やがて「おおすみ」から LCAC(エアクッション型上陸艇)が2隻飛び出し、11時前、前後して訓練場の南側(私たちの集会場の近く)に上陸。「上陸訓練をやめよ」「侵略のための訓練反対」「浜大樹海岸を軍靴で汚すな」などとシュプレヒコール。そして、上陸訓練が決して日本を守るためのものではなく、米軍と一緒に海外に侵攻するためのものである、と訴えました。

閉会集会では、十勝勤医協からの参加者が感想を述べ、道東勤医労から「矢臼別平和盆踊り」への参加を呼びかけ、道医労連の山本氏が挨拶。正午前、閉会。集会には39人が参加。



札幌から7人、釧路・別海から6人が参加。ありがとうございます。監視行動の結果はまとも次第、次号の通信でお知らせします。ヤグラを片付け、立看板を回収し、ヤグラの資材とトラックを返却し帰宅してびっくり。地元「十勝毎日新聞」に、浜大樹上陸訓練の記事が載っていましたが、よく読んでみると、「9日も同旅団約50人で独自の揚陸訓練を予定している」の記事!!!

9日(火)、もう一度浜大樹に向かった。

第5旅団独自に上陸訓練!

《9日(火)の監視行動》

9日(火)午前10時現地着、霧が立ち込め小雨パラパラ。波は穏やかだが、沖合いは霧で何も見えない。砂浜にまだ鉄条網。【10:12】霧の奥で LCAC の音。隊員3人、砂浜に出て沖合いを見ているが、間もなく引き返す。【10:20】霧が濃くなり、砂浜も見えなくなるが、しばらくすると、薄日が差し暖かくなってきた。

【10:40】霧の中で LCAC の音が大きくなる。

【10:44】LCAC2101 南に上陸。牽引ジープ3両上陸。

【10:47】もう一隻沖で音。【10:50】北に上陸。音はすれども姿は見えず。【11:00】霧が晴れてきて、北まで見通せるようになる。LCAC2102。車両などは確認出来ず。《警備の隊員に、第5旅団広報班長か総務課長が来ていたら会いたい、と告げる。まもなく2人が到着》以下、問答で分かったこと。



①これで第5旅団独自の上陸訓練は終了。②上陸した車両は、今朝、霧の中 LCAC に積み込み、「おおすみ」まで移動。③第5旅団独自の上陸訓練のねらいは、特にない。④昨日上陸した90戦車は、昨日のうちに解体し移動済み。訓練場に見えるのは、回収車。⑤昨日の上陸訓練には中央即応集団のヘリコプター隊が参加。⑥全体を見渡せる位置にホバリングしていたOH10は、指揮などの任務。⑦他に高官が乗っていたヘリも。

※第5旅団創立記念日に駐屯地外でのパレードはしない。小銃等の展示はしない。

集会を終えて

大樹町での31回目の上陸訓練だった。中央即応集団のヘリコプター隊が参加し、第5旅団も従来の「後方支援」だけではなく、LCACを使用して上陸訓練を実施し、上陸した部隊が昨年同様「然別演習場」での射撃訓練を行なうなど、上陸訓練は新たな様相を見せ始めた。十分な監視行動が出来なかったが、資料を検討して、上陸訓練全体をきちんと総括する必要がある。集会の持ち方も検討しなければならない。

重要な参議院選挙の真っ只中での集会に、集まって下さったみなさんに、心から御礼申し上げます。募金もいただきました。ありがとうございました。

3 「実弾紛失事件」

なんとも珍妙な事件である。9月13日(金)地元紙の「十勝毎日新聞」に、機関銃の実弾紛失の記事が掲載された。

12日(木)然別演習場で行なった実弾射撃訓練で使用する予定だった機関銃の実弾2発が紛失した。

ところが、翌14日(土)には、実弾2発を発見したとの記事。然別演習場の射撃場内、実弾を収めた箱を開封した場所から約3mの地面で発見されたという。

12日午後2時から13日午後2時過ぎまで捜索。紛失した経緯を詳しく調べるとしているが、どうもおかしい。

紛失の実弾2発発見 鹿追駐屯地 経緯を調査へ

【鹿追】町内の然別演習場で実弾射撃訓練を予定だった第5戦車大隊第1中隊(鹿追駐屯地)が機関銃の実弾(直径7・62mm、長さ約71mm、重さ約25g)2発の紛失を確認したと発表した。13日午後1時現在、紛失した実弾は見つかっていない。

紛失したものと同型の機関銃の実弾(陸自第5旅団提供)

同旅団広報班によると、紛失したのは、90式戦車搭載の74式車載機関銃の実弾。第5戦車大隊第1中隊(鹿追駐屯地)が同演習場内での実弾射撃訓練で使用予定だった1300発のうち2発。弾薬は、12日午前7時半に同駐屯地で箱詰めされた。

同旅団では、紛失を確認した12日午後2時以降、最大1000人体制で捜索を続けてきた。深津孔旅団長は「発見までの間、地域住民や関係機関に不安を与え、申し訳ありませんでした。引き続き原因を究明し、武器弾薬の管理を徹底して再発防止に万全を期します」とのコメントを発表した。

機関銃の実弾紛失 然別演習場で 陸自第5旅団

同旅団広報班によると、紛失したのは、90式戦車搭載の74式車載機関銃の実弾。第5戦車大隊第1中隊(鹿追駐屯地)が同演習場内での実弾射撃訓練で使用予定だった1300発のうち2発。弾薬は、12日午前7時半に同駐屯地で箱詰めされた。

同隊では、射撃訓練前の点検で紛失を確認後、訓練を中止し、1500人体制で捜索を開始。13日朝からは捜索人員を1000人に拡大し、同駐屯地内や射撃場を中心に探している。同大隊の中村智史大隊長(一等陸佐)は「地域住民や関係機関に不安を与え、申し訳ない。手段を尽くして捜索し、発見に努めると話している。」

2013.9.14 「勝海」

2013.9.13 「勝海」